
義妹とのにちじょう。

りえくと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

義妹とのにちじょう。

【著者名】

ZZマーク

N1950Z

【作者略】

りえくと

【あらすじ】

俺と義妹の日常

少し? 毒舌だが可憐で清楚な義妹とちょっと? 危ない義兄との会話

(前書き)

夏の暑さにひかってあせりました、反省してしません。
生温か…やつぱつ温かい田でみてください

「夏といえば海である」

高らかに宣言しよう、夏といえば海だ。異論は一切認めん
アイスやら肝試しやら花火等々色々とあるが、俺は一番海がいいんだ
・何故かつて？ 水着だよ諸君。色々なアングルから…想像もとい
妄想するだけで涎が垂れてきそうじゃないか

「というわけだ、海へ行こうじゃないか我が義妹よ」

「何がというわけで、なんですか。頭がおかしいんじゃないですか
？ どうどう夏の暑さにやられてしましたか…可哀そです」

うぐつ…相変わらずきついことを仰いますな

紹介しよう。毒舌だが可憐で美しくお淑やかなこの女の子は我が義
妹である

昔俺の親父の従弟がその奥さんと旅行していたら不運なことに交通事故にあって亡くなり、その娘の引き取り先を話し合った結果俺の家に引き取られることになったんだ

そんな俺の両親はある日突然「今から旅に出るぞ、わっはっは」とか「あなたと一緒に色々なところを見に行きたいわ」とか言い始め家から去つて行った。都合のいいことには毎月十分なお金が振り込まれている

昔から家事とかは得意だったから生活には困らなかつたが両親の唐突な行動に呆れていた

今となつてはもう些細なことだが。愛しの義妹と暮らせるなんて…
といつか暮らしている俺は幸せ者だ

「じゃ、じゃあ…海にとこづけ画は無しなのか

がっくりだ…義妹と砂浜で追いかけあつたり海水を掛けあつたり、できればほろりなんて展開をそうぞ…妄想していたんだがそんな俺の問いを義妹は華麗にスルーし乾いた洗濯物をせつせと畳んでいた

義妹が洗濯物を畳み終わった今現在の時間は正午だ
昼飯は俺が作ることになつてているので、簡単かつ短時間で作れるチヤーハンとラーメンにする

料理をしている最中に「ふつふ~ん」と鼻歌を歌つていたらテレビを見ていたらしい義妹に「五月蠅いしへたくそです、兄さん」と言われてへこんだのは秘密だ

出来あがつた昼飯を食べ、わざと茶碗を洗い終わったのでするのは特にはない
俺はまだ海に一緒に行きたいという願望を捨て切れていないので義妹に掛け合つてみる

「なあ、やつぱり海に」
「嫌です」

一刀両断されました

田から何か流れている気がするが決して涙ではない。ないつたらないんだ

「じゃあ、部屋に戻るので失礼します」

そう言ってテレビを消しそそくセミビングを出て行つた義妹
ぽつん、と一人残され暇になる

何をしようか悩んだ末、少し眠たかったのでソファーで寝る」とした

自分の部屋で寝るのもいいが一階はやはり暑い…扇風機やクーラーといった涼むための物もあるが気分的に使わない

「良い夢が見られますよ」…ぐへへ

やばいやばい、邪な想像をしてしまった…義妹とづふんづふん
とりあえずお休みと呟いて田を瞑る

「さん、兄さん」

な、なぜだ…可愛い声が聞こえるが揺れている…地震か？！

「バカなこと言つていないで起きてください、兄さん」

田をあけてみると義妹の顔が近くにあった

しそうと思えばキスが出来そうな距離だ…後が凄く怖いのでしないが

「な、何故俺の考えていることが…はつ、以心伝心」

言つた瞬間哀れむような視線でみられた

ような、ではなく実際哀れんでいるみたいだ…哀れみが増した

「その荷物はなんだ？」

義妹の足元にある鞄がとても気になる
ま、まさか彼氏が居て今からデートとかかっ！
神よ、そこまで俺が憎いのか…恨むぞ

「あ、その……えと、出かけるんです」

義妹は少し頬を紅く染め視線をさまよわせた後そう言った

「誰だ、誰なんだ…」

たぶんこの時の俺の顔は凄く怖かったのだろう、義妹の笑みが引き
攀っている

「それは…」「、兄さんですか」

前言撤回、神よ…ありがと

「や、それで何処へ行くんだ?」

頬が緩んでいるのが自分でも分かる

今なら母さんの壊滅的料理を食べても平氣でいられそうだ

「海です」

そう義妹が言つた瞬間の俺の行動は神が田を見張るほどどの速さだつ
ただろう

さつと身を翻し自分の部屋から海水パンツやらバスタオルやリビー
チボールやらを鞄につめ義妹のもとへと戻ってきた
有した時間は5分にも満たないだろう

「よし、行こう!」

「くじと義妹がうなずき玄関を出るが、そこで問題が起きた

雨が降つてゐるのである。しかもそれがあと音をたててこる。これは豪雨といつやつだ

「神様のバカやう…………！」

ふふん、思いつきり叫んでやつた

近所迷惑なんて知らん、恨むなら神を恨め

「やあ、わざわざまでは降つてなかつたですよな……残念です」

ほんとに残念だ……だが、まだ夏休みは長い
まだいけないとは限らないんだ……！

心中で自分を励まし、応援する

「今日は家でのんびりとするしかないか」

落胆して肩をがくつと下げる俺を義妹が元気づけるよつて囁く一聲
で言つた

「また今度行きましょう、兄さん」

そう言つてほほ笑んでくれる義妹は俺の最高の……家族だ
俺はこんな義妹が傍にいてくれることだが、何よりも幸せだ
さて……これから何をしようか

これは、そんな俺と義妹との楽しき日々の一コマ
いつかは俺と妻との楽しき日々になることだ

「 そんな日はさせんから

「折角綺麗に終わらつたのに何がしきやないか

ほんと... 幸せな日々だ

(後書き)

ふう…勢いつて、怖いですね

誤字脱字ありましたらご報告よろしくお願ひします

できればご感想等いただければ嬉しいのですが、批判等は作者がガラスのハートの持ち主ですのでご遠慮お願いします、すいません
また何処かでぬつ、と現れたら「ああ、またお前か」とでも思つてやつてみてください。それでは

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1950n/>

義妹とのにちじょう。

2010年10月22日00時51分発行